

エコアクション 21 環境経営レポート

2023 年度版



(対象期間 2022 年 12 月 1 日～2023 年 11 月 30 日)

作成日 2024 年 3 月 15 日

改訂日 2024 年 9 月 6 日

久野産業株式会社

当社は伸銅品・軽金属・ステンレス鋼を主とした非鉄金属を販売しております。
当社が販売した材料は、ボルト・ナットのようなネジ類をはじめ主要な機能部品として加工され、広範囲に使用されております。

1. 環境経営方針

環境経営方針

当社は、事業活動のあらゆる分野において、はかり知れない恩恵を受けてきた自然や資源を大切に、環境との調和を図るため、リサイクル活動を継続的に行い、循環型社会の形成に貢献します。

1. 環境経営目標及び環境経営計画を定め、定期的に見直し継続的改善に取り組みます。
2. 環境影響、環境負荷を軽減するために、次の活動を推進します。
 - ① 現状の燃料消費、電力消費に対しての削減を実施し、二酸化炭素の発生量を削減します。
 - ② 冷暖房の適正温度の徹底を実施します。
 - ③ エコドライブを徹底し、効率的な走行、安全運転を行います。
 - ④ 廃棄物量の削減を実施します。
 - ⑤ 水使用量の削減を実施します。
 - ⑥ 環境に配慮した商品（カドミル、鉛材）の小口対応、切断販売を実施し、得意先の在庫軽減に貢献する。
 - ⑦ グリーン購入の徹底を実施します。
3. 環境関連法規、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. この環境経営方針は教育や提案活動を通して全従業員に周知し、環境保全活動は全員参加により実行します。
5. 環境経営方針を含む環境経営レポートを作成し、地域や利害関係者からの要求に応じて配布、公表し、社内外への情報提供を行うことによって、積極的な環境コミュニケーションに取り組んでいきます。

制定 2009年 4月1日

更新 2020年11月1日

久野産業(株) 東京支店

代表取締役専務 柳原 望

2. 事業の概要

(1) 事業者名

久野産業株式会社 本社
大阪府大阪市中心区島之内 2-1 0-2 7

(2) 対象範囲

東京支店 東京都葛飾区立石 3-6-7
八潮倉庫 埼玉県八潮市木曾根 1 2 3 1-1
東北営業所 岩手県一関市真柴字吉ヶ沢 2 3-2 6

※エコアクション 21 対象外

久野産業株式会社 本社(ISO14001 認証登録)
大阪市中心区島之内 2-1 0-2 7

(3) 事業の概要

伸銅品・軽金属・ステンレス鋼などの非鉄金属の販売・切断加工、
運送業

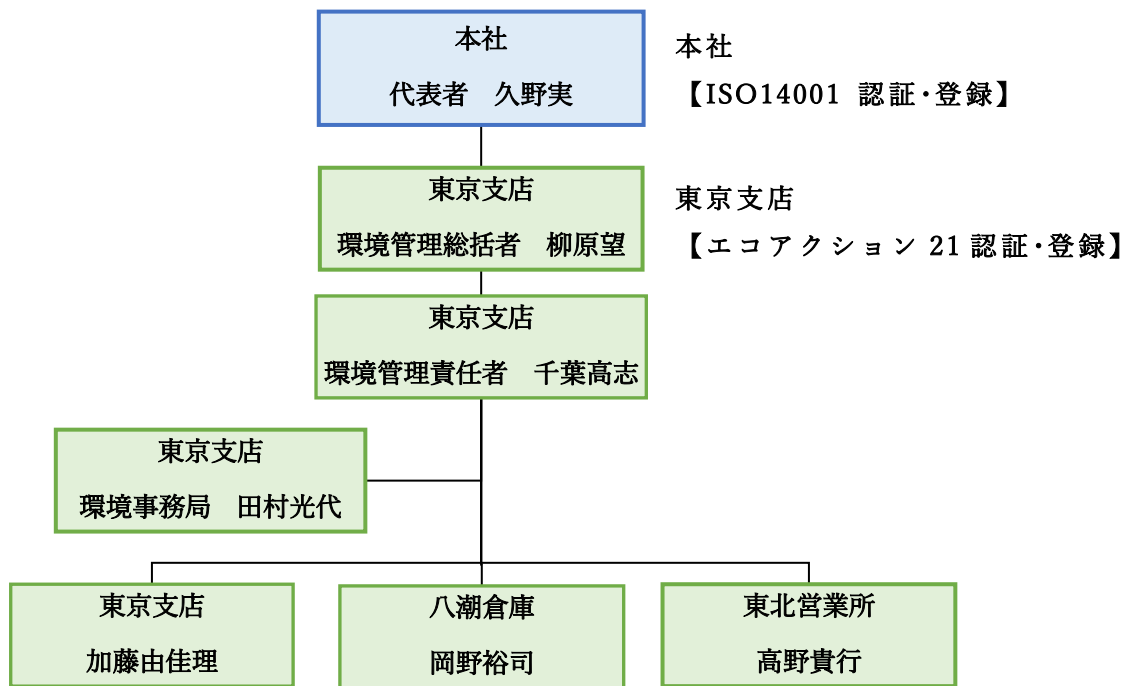
(4) 事業の規模（大阪含む）

資本金 2 0 百万円
従業員 59 名 （R5 年 3 月現在）
※エコアクション 21 の対象は、東京支店管轄 32 名のみ
事業所面積 3,650 m² 内東京支店管轄は 1,884 m²

(5) 環境関係の責任者、および担当者連絡先

環境管理総括者 代表取締役専務 柳原 望
環境管理責任者 営業部次長 千葉 高志
環境事務局 営業部 田村光代
連絡先電話 03-5654-1051

3. 実施体制



役職	役割
環境管理総括者	イ) 経営における課題とチャンスを明確にする。 ロ) 環境管理責任者を任命するとともに、実施体制を構築する。 環境管理責任者には、現在の任務に関わりなく責任と権限を明示する。 ハ) 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営資源（人材、資金、設備、技術、技能を含む）を準備する。 ニ) 環境経営システムに関する基本方針を制定し、環境経営マニュアル、環境経営目標及び環境経営計画を承認する。 ホ) 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、方針・目標をはじめ、システム全体の見直しを行い、必要な指示を行なう。
環境管理責任者	イ) 環境経営に関する経営資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために、環境管理委員会を運営する。 ロ) 環境経営システムの構築と運用を円滑に行い、代表取締役による全体の評価と見直しのための情報として、環境経営システムの構築・運用に関する情報を環境管理統括者（代表者）に提供する。
環境事務局	イ) 環境管理責任者の指揮下で環境経営システムの運用・管理を行なう。 ロ) 文書及び記録の管理を行なう。 ハ) 環境管理委員会の議事録を作成する。

4. 環境経営目標

2019 年度より電力使用量・ガソリン・軽油購入量・可燃ごみ・水使用量を
原単位で管理しています。

＜原単位の計算方法＞

電力使用量：kWh × 調整後排出係数(kg-CO₂/kWh) ÷ 売上重量(t)

燃料 ㊦ガソリン購入量(ℓ) × 排出係数(kg-CO₂/ℓ) ÷ 売上重量(t)

㊧軽油購入量 × 排出係数(kg-CO₂/ℓ) ÷ 売上重量(t)

可燃ごみ：kg/在籍人数(人)

水使用量：m³/在籍人数(人)

※LPG・灯油は節約に努めますが、削減目標対象には含めません。

環境目標	基準年(2022 年度実績)				年度目標	中期目標	
	使用量	売上重量 在籍人数	kg-CO2 排出量	原単位	2023 年度 基準年-0.5%	2024 年度 基準年-1.0%	2025 年度 基準年-1.5%
①電気使用量 削減	98,491kWh	4774.6t	43,652	9.3kg-CO2/t	9.3	9.2	9.2
②燃料購入量 削減	58,533.1L		149,587	31.3kg-CO2/t	31.1	31.0	30.8
③一般廃棄物 排出量削減	3,709.0kg	33 人		112.4 kg/人	111.8	111.3	110.7
④水使用量 削減	204 m ³			6.2 m ³ /人	6.2	6.1	6.1
⑤産業廃棄物(木くず)及び 金属くず(有価売却)の 100%再資源化を維持します。							
⑥環境対応商品(カドミレス材、鉛レス材)の拡販							
⑦グリーン購入の取組							

【注】

※基準年の電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株)の 2021 年度調整
後排出係数(参考値:0.441kg-CO₂/kWh)、東北電力(株)の 2021 年度調整後排出係数(参考
値:0.457kg-CO₂/kWh) から算出し合算しています。

※基準年のガソリンの排出係数は 2.32kg-CO₂/L。基準年の軽油の排出係数は 2.58kg-CO₂/L。

5. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

取組目標	取組内容	実施した取組内容	評価
① 電気使用量削減	・使用しない照明やOA機器等を消す ・エアコンの適正使用 ・照明機器のLED化	・八潮倉庫 第一倉庫の照明をLED化 ・不要照明の徹底、間引き ・外出時、退社時のPC電源オフの徹底 ・給湯器の夏季停止(立石事務所) ・蛍光灯のHFに変更 ・エアコンの設定は健康と作業効率を考えた適正温度にする	○
② 燃料購入量削減 (ガソリン・軽油)	・エコドライブの徹底 ・計画的配送による効率化	・車両管理システムを用いて安全運転診断や走行ルート最適化を行う ・アイドリングストップの徹底 ・急発進、急停車はしない ・車両の日常点検の徹底 ・車内の冷暖房を控えめにする ・同一地域への配達を集約 ・エコドライブ10のすすめの周知	○
③ 一般廃棄物 排出量削減	・計量による廃棄物量の把握 ・廃棄物の仕分けの徹底 ・コピー用紙の削減 ・ペーパーレスの促進	・ゴミ分別の徹底 ・裏紙・両面印刷の使用 ・使用済み用紙のリサイクル化 ・web受注システムの利用促進によるペーパーレス化 ・請求書のweb化	○
④ 水使用量削減	・節水の徹底	・節水の注意喚起	○
⑤ 産業廃棄物の 再資源化	・産業廃棄物(木くず)及び金属くず(有価売却)の100%再資源化の維持		○
⑥ 環境対応商品の 拡販	・グリーン購入法適合商品の積極的購入	・事務用品等の購入時に「グリーン購入法」「エコマーク」のマークのあるものを優先する	○

6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果

環境目標	2023 年度 目標原単位	運用期間実績 2022 年 12 月～2023 年 11 月				結果判定
		使用量	売上重量	kg-CO2 排出量	原単位実績	
① 電気使用量削減	9.3kg-CO2/t	99,602kWh	4,400.1t	44,161.8	10.0kg-CO2/t	×
② 燃料購入量削減	29.8kg-CO2/t	55,142.4L (内訳) ガソリン：4,706.6L 軽油：50,435.9L		141,043.9	32.1 kg-CO2/t	×
環境目標		使用量	在籍人数	CO2 排出量	原単位実績	結果判定
③ 一般廃棄物排出量 削減	111.8kg/人	3,169.0 kg	32 人	—	99kg/人	○
④ 水使用量削減	6.2 m³/人	212.0 m³		—	6.6 m³/人	×
⑤産業廃棄物(木くず)及び金属くず(有価売却)の 100%再資源化 木くず、金属くずkg 100%再資源化を維持しました。						○
⑥環境対応商品(カドミレス材、鉛レス材)の拡販 小ロット、小口販売の提案など積極的な提案営業を行いました						○
⑦グリーン購入の取組 事務用品の環境配慮型製品の優先購入を継続しました。						○

CO2 総排出量(LPG・灯油を含む) 単位:kg-CO2

	2023 年
東京支店	19,149
八潮倉庫	139,240
東北営業所	30,387
合計	188,776

7. 実績と取組結果の評価

- (1) 環境への負荷 : 世界的な脱炭素のトレンドから、社員の意識も向上している
- (2) 自己チェックリスト : 続及び維持に留まらず、尚一層の技術向上に突き進みます。
- (3) 期間中の取組みの評価

- ・電気使用量削減 : 目標未達成。販売実績（重量）は前年比で 7.8%減。
- ・燃料購入量の削減 : 目標未達成、販売実績（重量）は前年比で 7.8%減も配送頻度は変わらず、また活動が広範囲にわたるため、必要以上の高速走行が増えている
- ・一般廃棄物排出量の削減 : 目標達成。
- ・産行廃棄物廃物の再資源化 : 金属くずの 100%再資源化は継続出来た。
- ・水使用量の削減 : 八潮で定期的に洗車することが習慣化した。
- ・カドミレス・鉛レス材の拡販 : 前年対比でカドミレスー12.9%減、鉛レス±0%。
需要の急減、相場高騰による代替素材への変更も
- ・グリーン購入の導入 : 事務用品等の購入の際は無駄を省き、環境に配慮された製品を購入するよう引き続き心がける。

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度の環境経営目標は中期環境経営目標の達成に取り組めます。（5 ページ）
社員の活動は、今までの取組みを確実に継続します。
事業活動の面では、環境に優しい商品の販売強化や、生産ロット、配送方法などの見直し、エコドライブの推進、受発注や請求書・納品書発行の WEB 化によるペーパーレスの推進により環境負荷低減に取り組んでいきます。

9.環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2024年3月に環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
また過去5年間、関係機関より違反・訴訟等の指摘はありません。

代表者による全体の評価と見直し・指示

取組状況の評価

2023年度は2022年秋からの需要急減の影響でリーマンショック時並み低迷。
重量ベースで4400トン、7.8%減（東京前比-7.6%、東北前比8.8%増）。カテゴリー別では伸銅品7.7%減、アルミ-15.2%、ステンレス、チタン・特殊鋼5.8%増。主力の黄銅棒は全体で9.7%減。

自社加工の切断は前比13%減。ローレットは引抜数前比6.8%減。

日本軽金属のJIS問題は3年目に突入も解決の糸口は見え、柱のひとつであるアルミ棒は競争力を失いつつある。今後は得意の黄銅棒に特化していかねばならない。

ものの動きは悪いが、相場の高止まりの影響から金額ベース実績では5.2%減でとどまる。
WEB受注システム「久野プラス」へのシフトも少しずつ進んでおり、作業効率アップに寄与。

2023期より新規事業として、運送業をスタート。昨今のドライバー不足の背景から仕入先との連携もスムーズに進む。2024期はより運送業の事業展開を拡げていきたいと考えている。

環境保護の取り組みとして、現在は属人化しているトラック配車を最新のAI等の活用したシステムの導入を計る

環境責任者への指示

項目	変更の必要性	指示内容
環境経営方針	無し	
環境経営目標	有り	次年度以降の中期目標の変更
環境経営計画	無し	
実施体制	有り	・総務、経理部門と営業部門を東京支店に統合 ・環境事務局担当者の変更
環境経営システム	無し	
その他	無し	